

都道府県名：宮城県

【経営の概要】

施設栽培きゅうり 促成栽培(定植：1月上旬 収穫2月上旬～6月末)＋抑制栽培
大型ハウス 2,000 m²
その他 無加温パイプハウスによるきゅうり栽培 1,000 m² 水稻 1.5ha

【対策の内容】

- ・ハウス内張カーテンの多層化
天井カーテンを2層，サイドカーテンを3層にして保温性を向上させている。
特に，サイドカーテン3層目は断熱性の高いシルバーポリを用い，開閉している。
- ・生育初期に小トンネル活用
特に高温で管理する必要がある定植から蔓上げまでの生育初期は，小トンネルを設置し 加温容積を小さくすることで，暖房の効率化を図っている。
- ・やや大苗で定植
定植から収穫（収入）開始までの期間を短くし，さらに本圃での暖房期間を少しでも短くするために，本葉3枚程度のやや大苗を定植する。
- ・変温管理
果実肥大を促すため夕方～午後9時まで室温を14℃とし，夜中は12℃に下げる。
さらに早朝6時から15℃にあげて光合成活動を促す。



ハウスサイドのシルバーは毎日開閉する
生育初期は小トンネルで保温する



定植時の苗は，本葉2.5～3枚程度
やや大苗にして本ほでの生育を進める

【対策の実践効果】

	取組前（A）	取組後（B）	B / A
燃料の種類と使用量	A 重油：13kL/10a	A 重油：7 kL/10a	53.8 %
加温に係る燃料経費①	約 1,040 千円/10a	約 560 千円/10a	—
対策に係る追加費用②	—	約 150 千円/10a	—
① + ②	1,040 千円/10a	710 千円/10a	68.3 %

【今後の課題】

上記実践効果は、H20 産促成栽培において A 重油価格約 80 円/L での事例であり、その後 A 重油価格は上昇を続けており、今後は、作型の変更（栽培時期を遅くする）や管理する温度条件の変更（低くする）なども検討する必要がある。この場合は、出荷開始遅延、収穫期間短縮、販売単価低下などの弊害が予想される。さらに管理する温度条件などによっては収穫量なども変動してくる。このため、変動する要素が多く、経営計画を立てるためのシミュレーションが難しく、普及センターにおける指導上の課題にもなっている。

【問い合わせ先】

宮城県 農業振興課 電話：022-211-2838